



海外時報

測地學地球物理學國際同盟の第6回總會

國際測地學地球物理學同盟第6回總會は去る1936年9月17—25日スコットランドのエデンバラ市 McEwan 會堂で開かれた。米國の W. Bowie 氏を會長とし、32ヶの加盟國と10ヶの非加盟國とから總計378人の代表者が出席した。吾が日本からは今村明恒博士が出席した。

總會は測地學、地震學、氣象學、地磁氣學及電氣學、海洋學、火山學、水理學の7分科に分れて各々重要問題を協議し、又、種々の招待會其の他の社交的催しもあつた。

特に重要なものとして、測地學部で Sampson 氏が振子時計、Rayner 氏が水晶時計に關する論文を發表し、Bullard 氏は東アフリカの重力測定事業を報告した。

地震學部では、Gutenberg 及 Richter 兩氏が深發地震を論じ、Somville 氏は垂直地震計の新型を發表した。又、石本博士の提議により今後各所からの地震報告には初期振動の方向を報告することに決した。

氣象學部と海洋學部とは聯合して、今後更に海上の氣象觀測を集めるため、上層大氣の海上觀測に商船の援助を求むること、及び低氣壓の頻發する北緯55°西經30°の所に特務船を派遣して諸種の觀測結果を獲、又商船よりの報告を取り繼ぐこと、及び、アイスランドやアゾレス群島の氣象觀測を強化することを決議した。

地球電磁氣部ではアイスランドに新觀測所若干を設け、早廻り地磁氣記録を獲ることを決議した。

水理學では初めて雪の國際委員會を開いた。

本同盟としては今後特に海洋底の地殻問題を研究する目的の委員會を設けることとなつた。

同盟は D. la Cour (丁國) を次期の會長に推し、英の H. St. J. Winterbotham 氏を總幹事とし、各部は

測地部長	V. Meinesz,	同 幹事	Perrier,
地震部長	Oddone 及 Heck	„	Rothé,
氣象部長	V. Bjerknes 及 Chapman	„	Wehrle 及 J. Bjerknes
海洋部長	Knudsen 及 H. Hansen	„	la Cour 及 Proudman
火山部長	Michel-Lévy	„	Malladra 及 Signore
水理部長	Smetana 及 Luetschg	„	Dienert 及 Frolow

次の第7回總會は1939年に米國ワシントン市にて開かれる筈。

オクスフォド天文臺のヘリオメータ

今から約99年前、西曆1838年に獨國ケニクスベルヒ大學天文臺のベセルは始めてヘリオメータと言ふ新優秀器を使つて白鳥座61番星の視差を測り、之れが太陽の約40萬倍の距離であることを知つたので、之れ以來歐米各國の天文臺では恒星距離測定のため皆ヘリオメータを愆しがつたものである。英國ではオクスフォド市のラドクリフ天文臺が1848年に此の新器械を獨國ハムブルグ市のレプソルド會社から購入し、大いに學界に活躍したものであるが、近年は長大な寫眞望遠鏡による恒星視差の觀測が一般に行はれるやうになつて、どこでもヘリオメータは用ひられなくなり、上記オクスフォドのものも1906年に取り拂はれたまゝになつてゐた。近頃此のヘリオメータはロンドン市南ケンシントンの理學博物館に移されて、天文史の參考品となつた。[Nat. 3498].

セント・アルバンス女學校の新天文臺

大英天文協會の前會長故 W. A. Parr 氏が遺した4吋赤道儀 (Cooke) 其他一切の器械は近頃ロンドン市セント・アルバンス女學校に寄贈され、去10月23日前グリニチ天文臺長ダイソン博士臨場の下に此の新天文臺の獻堂式が行はれた。

新偏光板 “Polaroid”

螢石のやうに光線の振動面を偏らせる“偏光板”Polaroidといふものを近頃世界各所で作られるやうになり、我が國でも東京工大で研究されてゐるが、米國では Boston 市に工場を有ち New Jersey に事務所を有つ International Polaroid Corporation といふものが創立された。此の偏光板はフィルムであつて、以前にはニトロセルロイズで作られてゐたのを、近來は不燃性の醋酸セルロイズとし、第一種のは光學器械用で、無色有色兩種がある。又第二種のは光源からの光を(用途により)直ぐ偏光させるもので、無色ではなく、ガラスにはり付けることになつてゐる。

偏光板は、天文學的には、光源よりの光が反射光であるや否やを検出するためと、又、光度計の部分品として光りの強さを加減する場合などに用ひられるのが普通で、今までは専ら天然の礦石より作つたニコルのプリズム等を使用してゐたが、上述の如き人造物が現はれたので、今後は頗るひろく用ひられるやうになるだらうと思はれる。(口繪参照)

日滿時差の撤廢

先に山本博士らの提唱は滿洲當局を動かして、遂に1936年12月31日23時0分を以て1937年1月1日0時0分と改められ、同日23時より24時までの1時間はなくなり、昭和12年(康德4年)元旦より日滿同時制を採用さるゝことゝなつた。友邦滿洲國のためにも悦ばしいことである。この新時制に改まる瞬時聞、滿洲の大晦日の深夜に色々な悲喜劇を起したことであらう。

謹賦御題田家雪以供一采并乞政

鼠尾去端牛首迎 田家一樣雪華清
初光皦々豐年兆 夕影融々合和清

神戸關守畔 改發香塢